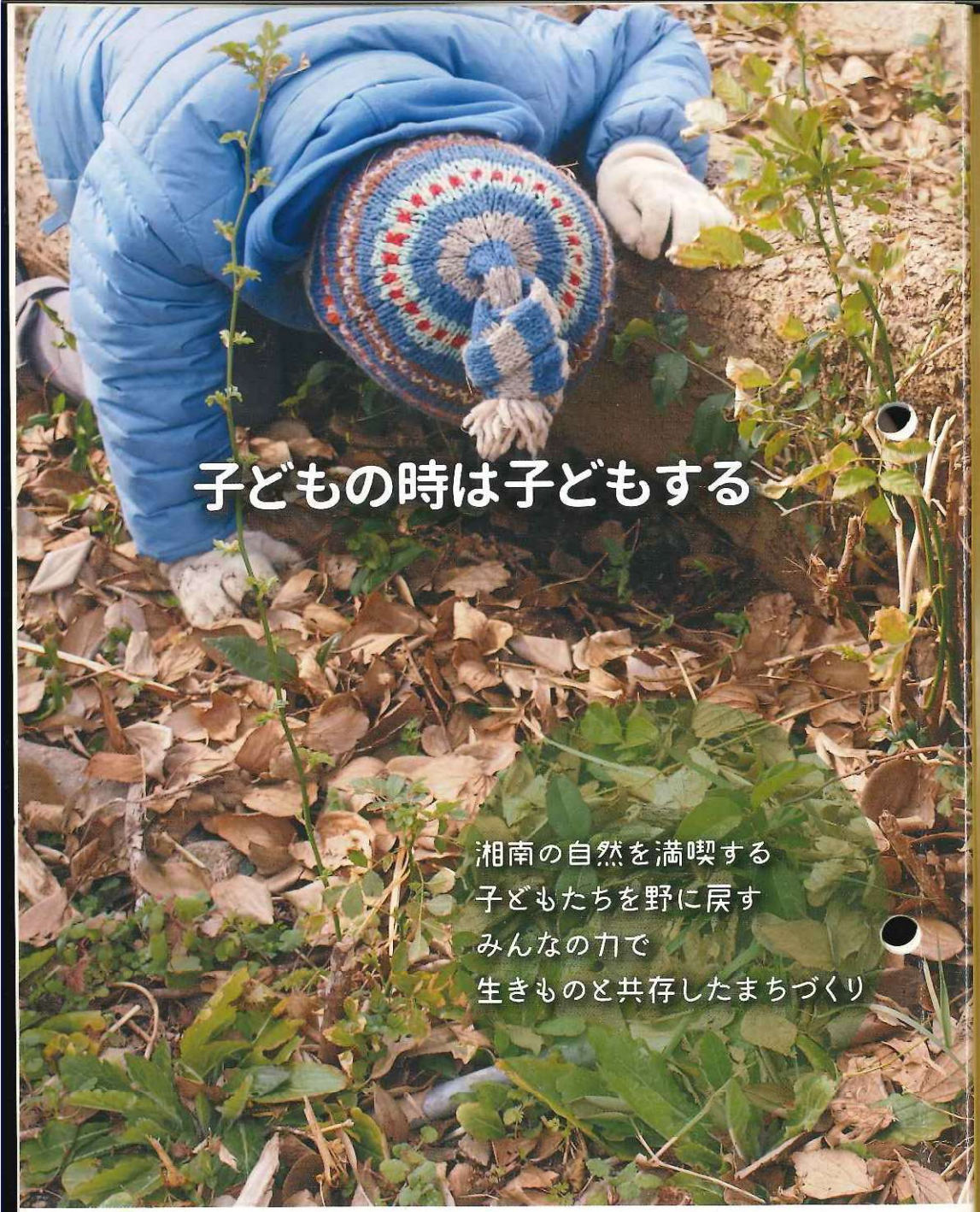
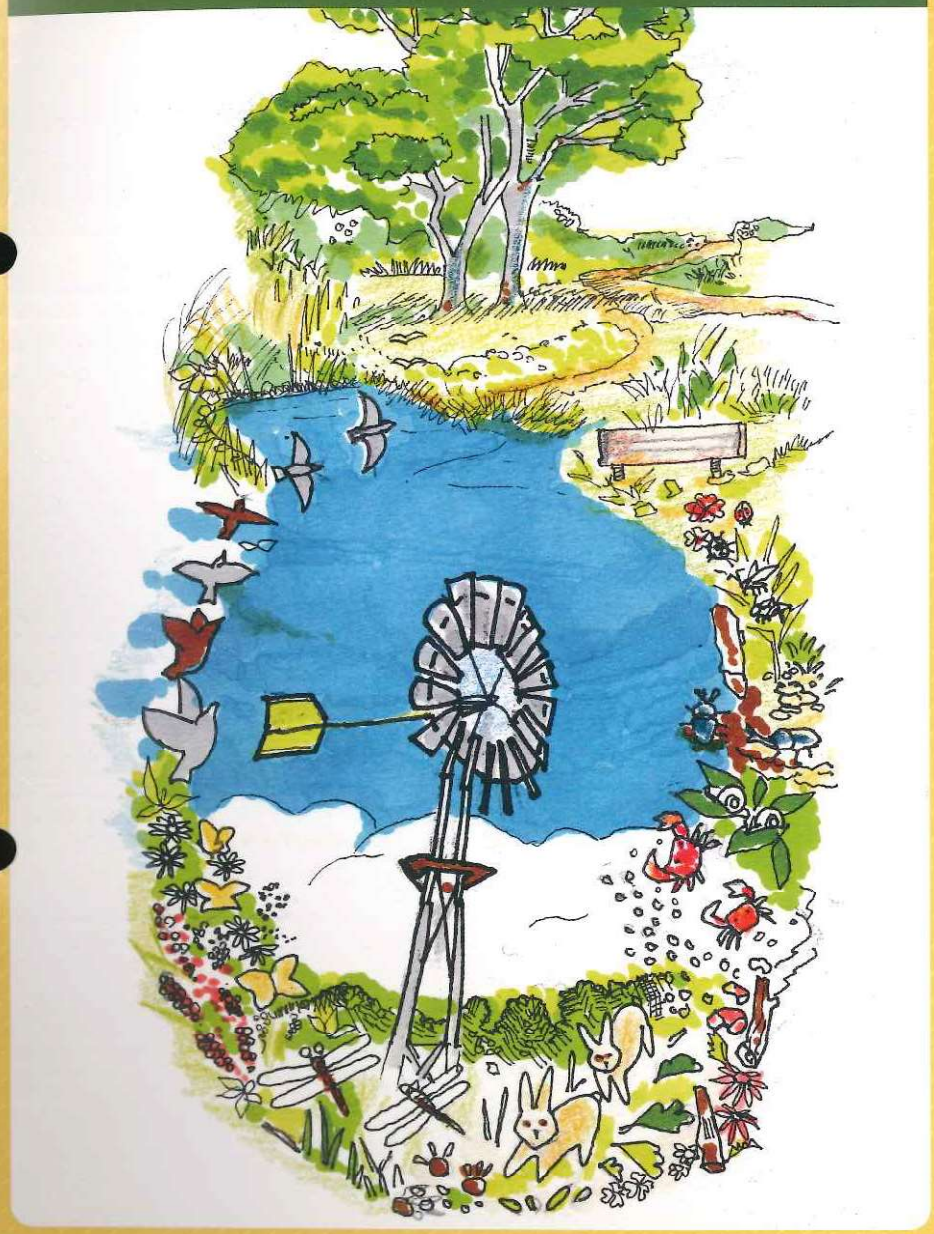


河川基金

公益財団法人河川財団による河川基金の助成を受けています。

馬入水辺の楽校ガイドブック

自然と友だちになる



NPO法人 暮らし・つながる森里川海

ここに来ると面白いこと楽しいことが発見できる

自然の遊び場　馬入水辺の楽校

草ぼうぼうの原っぱで・・・・

なんだ何もないやと思うかもしれないけれど
一歩踏み込むとチョウやバッタが飛び出してくる。

公園とちがって、でこぼこしていたり、
川や池があったりで、危ないところもあるけれど
子どもたちにとって、
楽しいと思えることがいっぱい詰まっている。

さあ、自然のワンダーランド、
馬入水辺の楽校の扉を開けてみよう！

はじめに

自然の遊び場、馬入水辺の楽校は2001年4月に開校しました。

国土交通省の進める水辺の楽校プロジェクトに平塚市が参画し、市民との協働活動でつくられました。開校以前は、大部分が駐車場で、不法投棄や不法耕作が行われていた場所でした。川の自然と触れ合える場にしようと、ワンド（入江や川の淀み）やトンボ池、カエル池など、水辺の自然環境を復元しました。

17年経過し、希少なカヤネズミが生息するなど、相模川でも第一級の生物のホットスポットになりました。運営は馬入水辺の楽校運営協議会（NPO法人暮らし・つながる森里川海、桂川・相模川流域協議会相模川湘南地域協議会、松原地区自治会、平塚市、国土交通省）の協働活動により、行われています。

自然と友だちになる

都市化の進展による身近な遊び場の減少やテレビゲームの普及などにより、子どもたちが外で遊ばなくなっています。自然との触れ合いが減ると集中力がなくなったり、他人への気づかいが減ったりなど、身体的、精神的な問題が多くなると言われています。子どもたちと自然との触れ合いを深める活動が必要になっています。

このブックでは、動植物の専門的な知識は他の本にゆずり、自然と友だちになる方法を紹介しています。水辺の楽校には多様な自然が息づいています。長年、水辺の楽校の自然を見続けていますが、まだ、入り口に立ったばかりで、毎回、新しい発見や驚きがあります。

旺盛な好奇心を持ち、見る、聞く、触れるなど、五感を生かして自然と触れあえば、心ときめく世界があなたを待っています。

トコロジストになろう

ある場所のことならなんでも知っている。「その場所の専門家」のことをトコロジストと呼びます。浜口哲一先生（平塚市博物館元館長：故人）の呼びかけで、アオバト研究家で知られている田畑裕さんが命名されました。私たちが目指す、生き物と共存したまちづくりを進めるためには、その場所の歴史や風土、動植物など、幅広い知識を持つ必要があります。自分が興味を持ち、その将来に関心を寄せている場所について、とことんこだわってみる。あなたも、平塚の専門家、生き物のトコロジストを目指して見ませんか。

目　次

ここに来ると面白いこと楽しいことが発見できる ―― 2

はじめに ―― 3

目次 ―― 4

水辺の楽校へようこそ ―― 6

自然観察の心得 ―― 8
服装・持ち物・観察のために・安全に気をつけよう
川で遊びたいと思ったら・危険な生き物・マナーを守る
市民や子どもたちが自然と触れ合う場です

自然のワンダーランド ―― 12
トンボ池・カエル池・自慢の原っぱ・下流ワンド・上流ワンド
ヤギ島・お花畑も見逃せない

川遊びの心得 ―― 18
ライフジャケットの使い方を学ぼう・なんてったって川遊び

自然観察入門 ―― 20
歩こう「浜口哲一自然観察の路」・五感で感じる
子どもの時は子どもする・見る、聞く、さわる、かぐ、味わう
虫眼鏡を使う・双眼鏡を使う・写真を撮る・行動を撮る・スケッチする
フィールドノートをつけよう・雨の日の観察・雪の日の観察・凍る

トンボ池の生きもの ―― 29
トンボ池づくり・新トンボ池

原っぱの住人 ―― 31

おもしろ野鳥観察 ―― 32
カラスウオッチング・ねぐら探偵団

フィールドサインを見つけよう ―― 33

一つの種をじっくり見る ―― 33

ナイトハイク ―― 34
夜の観察会

新たな自然観察の手法 ―― 35
センサーカメラで自然観察・モグラ学事始

地べた探検 ―― 37
ロゼット探しとロゼットごっこ
落ち葉や朽木、石の下などをひっくり返してみる

鳴く虫やバッタと友だちになる ―― 39
虫を愛でる文化・知られざる音の世界・鳴く虫に親しむには
コオロギ、バッタ、キリギリス・草原とバッタ・水辺の楽校は特別の場所
鳴く虫を守ろう・大バッタ飛ばし大会・水辺の楽校や身近な場所の鳴く虫

樹木と触れ合う ―― 44
樹形と樹皮・樹皮を比べてみる・オニグルミの一年・春 ―雄花と雌花―
春を待つ冬芽・食べる

つる性植物 ―― 46
右巻き・左巻き・巻きひげ・巻きひげで遊ぼう・付着根

タンポポ ―― 49
セイヨウタンポポ・カントウタンポポ・シロバナタンポポ

水の中をのぞいてみよう ―― 50
種類が多くて見分けがむずかしい？…ハゼの仲間
その他の魚たち
カッコイイ！…テナガエビとヌマエビ
カニもザクザク出てくるゾ…石の下を探してみよう
ここがポイント！ 水辺の楽校に多いハゼ類の見わけ
ここがポイント！ テナガエビ類の見け
カニはここがポイント！ 陸にいるか、水の中にいるのかに注目
これは珍しい？～運が良ければ or 採集が上手ならば採れます

野遊び図鑑 ―― 58
クズのつる遊び・オギの隠れ家づくり・オギの穂のフクロウづくり
草笛教室・ひっつき虫のタペストリー・落ち葉のお絵描き
ストーンペインテイング・ドリームキャッチャー

エコアップ大作戦 ―― 63

素敵な未来を子どもたちに　サポーター募集中！ ―― 65

あとがき ―― 66

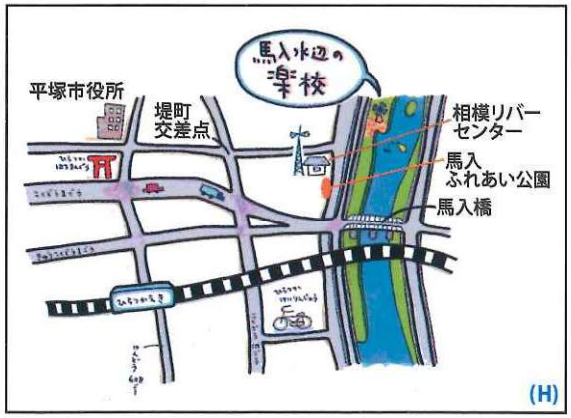
川と友だちになる ―― 67

(KU)

水辺の楽校へようこそ

相模川の下流域を馬入川と呼びます。馬入水辺の楽校は河口から3キロ上流の右岸、平塚市に位置します。国道1号線の馬入橋よりも約1㎞上流の河原に目印の風車 YellowTail が見えます。

「関東・水とみどりのネットワーク拠点百選」認定地



電車でお越しの方

JR東海道線平塚駅北口下車。
神奈川中央交通バス「茅ヶ崎」行き、馬入橋下車、上流方向に徒歩12分。
または「東八幡工業団地」行き、馬入ふれあい公園入り口下車、川に向かって徒歩10分。
※駅から1.9㎞。徒歩20分程度

車でお越しの方

国道1号線馬入橋西側から129号に入り、堤町交差点を東に直進。
馬入ふれあい公園駐車場。

生きものとの出合いが待っている ワクワク、ドキドキが詰まっている

不法投棄の場だった（1998年頃）

オオカマキリ

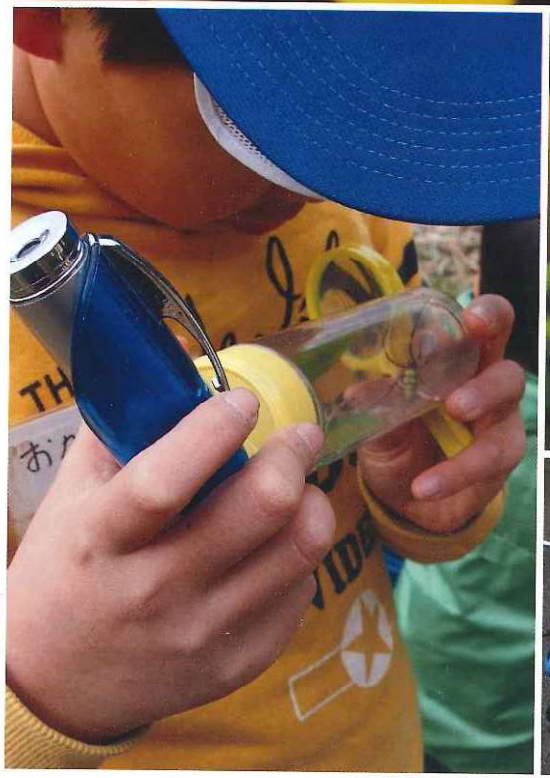
カンムリカイツブリ

カヤネズミ (HH)

ナマズ

ヤゴ

カエル池の生きもの調べ



服装

ハイキングに行く格好。つる草が茂ったヤブやノイバラがあちこちにあります。長袖、長ズボンがオススメです。長靴があるとぬかるみも歩けます。帽子は必携。冬は寒いので防寒着。

持ち物

飲み水、タオル、お昼を食べる時はお弁当、お菓子、ピクニックシート

観察のために

虫眼鏡、双眼鏡、捕虫網、フィールドノート、筆記具、カッター、ものさし
ポリ袋（採集物を持ち帰る時などに）

安全に気をつけよう

整備された都市公園ではありません。でこぼこやぬかるみがあったり、危険な生き物がいたり、安全に注意して遊びましょう。小さな子どもは大人の人と一緒に行動しましょう。

川で遊びたいと思ったら・・・

馬入川は深くて、干満の差も激しく、川遊びの経験のある人との同行が必要です。川の中に入れるのは大潮の干潮時だけです。潮見表で最大干潮時間や満ちてくる時間を調べ、満ちて来る前に川からあがりましょう。初めての人は「川の自然楽校」や「ヤギ島探検ツアー」に参加しましょう。川遊びのいろんなことが学び、体験できます。湘南いきもの楽校のHPに情報を掲載します。

https://shonanikimonogakkou.wordpress.com

＊子どもたちだけでは絶対に川に入らない

＊川の中では走らない

砂の中に杭などが隠れていることがあります。
足元を注意深く見ながら動きましょう。

＊本流には入らない

流れが早く、深みがあり危険です。

＊増水時は入れない

前日が大雨の場合など、晴天でも増水しています。

＊ウォーターシューズがお勧めです

長靴やビーチサンダル、クロックスなどは足が泥に取られ、うまく歩けません。

川遊びの時は必ずライフジャケットをつけましょう！

危険な生き物

アシナガバチやスズメバチ、ムカデやヤマカガシなど、危険な生物が生息しています。私たちの活動では、一度も事故は起きていません。危険な生物がいるということを知っているからです。そう思ってブッシュの中に入ると、自然とハチの存在に気がつきます。

スズメバチは巣の近くに人が近づくと、偵察に飛んできたり、カチカチと鳴きます。サインを見逃さずに！

マナーを守る

水辺の楽校の主人はここに棲む生きものたちです。彼らの生活をじゃましてはいけません。カニや魚など、たくさん採って持ち帰るのはやめましょう。責任を持って飼える範囲にとどめましょう。

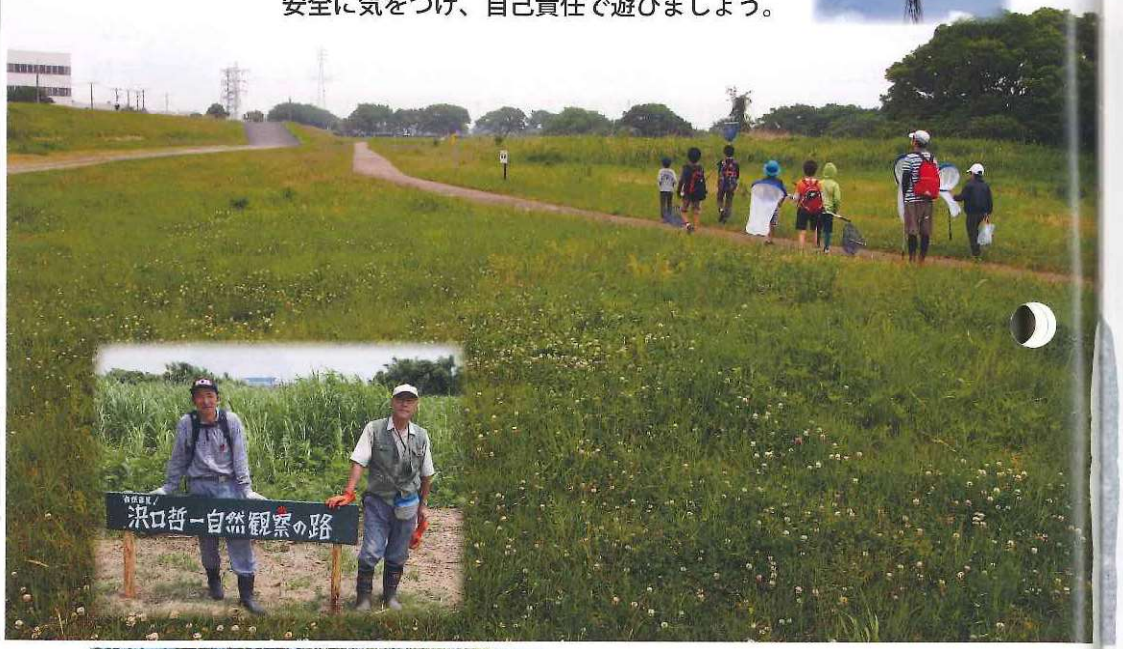
市民や子どもたちが自然と触れ合う場です

ラジコンや焚き火、バーベキューやゴルフ、野球、サッカーなどの球技、大きな音を立てたり、犬の放し飼い散歩は禁止です。ゴミは持ち帰りましょう！

リードのない散歩はやめましょう。糞も持ち帰りましょう！

自然のワンダーランド

ここは自然の遊び場です。
安全に気をつけ、自己責任で遊びましょう。



春はオランダガラシが水路を覆います。

堤防の上から原っぱに降りると馬入水辺楽校の案内板が目に入ります。「浜口哲一自然観察の路」沿いに、校内を一巡できます。

奥に見えるのがランドマークの風車YellowTailです。オーストラリア製で、地下10mくらいのところから地下水を汲み上げ、カエル池に流します。飲めませんが、夏などはヒヤッとして気持ちいいです。

校内には自然観察をサポートする自然ガイドパネルや自然発見きっかけパネルが設置してあります。

ゆっくり歩いて１時間くらいで回れます。五感をフルに発揮して、自然との触れ合いを楽しみましょう。

トンボ池

トンボ池はみんなでつくりました。穴を掘って、シートを張り、土と水を入れ、水生植物を植えました。
すぐにオオシオカラトンボやギンヤンマがやってきました。ミズカマキリやハイイロゲンゴロウなどの水生昆虫も元気です。
新トンボ池ではタヌキやアライグマ、サギ類などの足跡も見られます。

カエル池

カエル池もいろいろな生きものが見られます。
夏にはギンヤンマが飛び回っています。カワセミが小魚などを採りに来ています。外来種のアメリカザリガニやウシガエル、ミシシッピアカミミガメが増えていて、困っています。

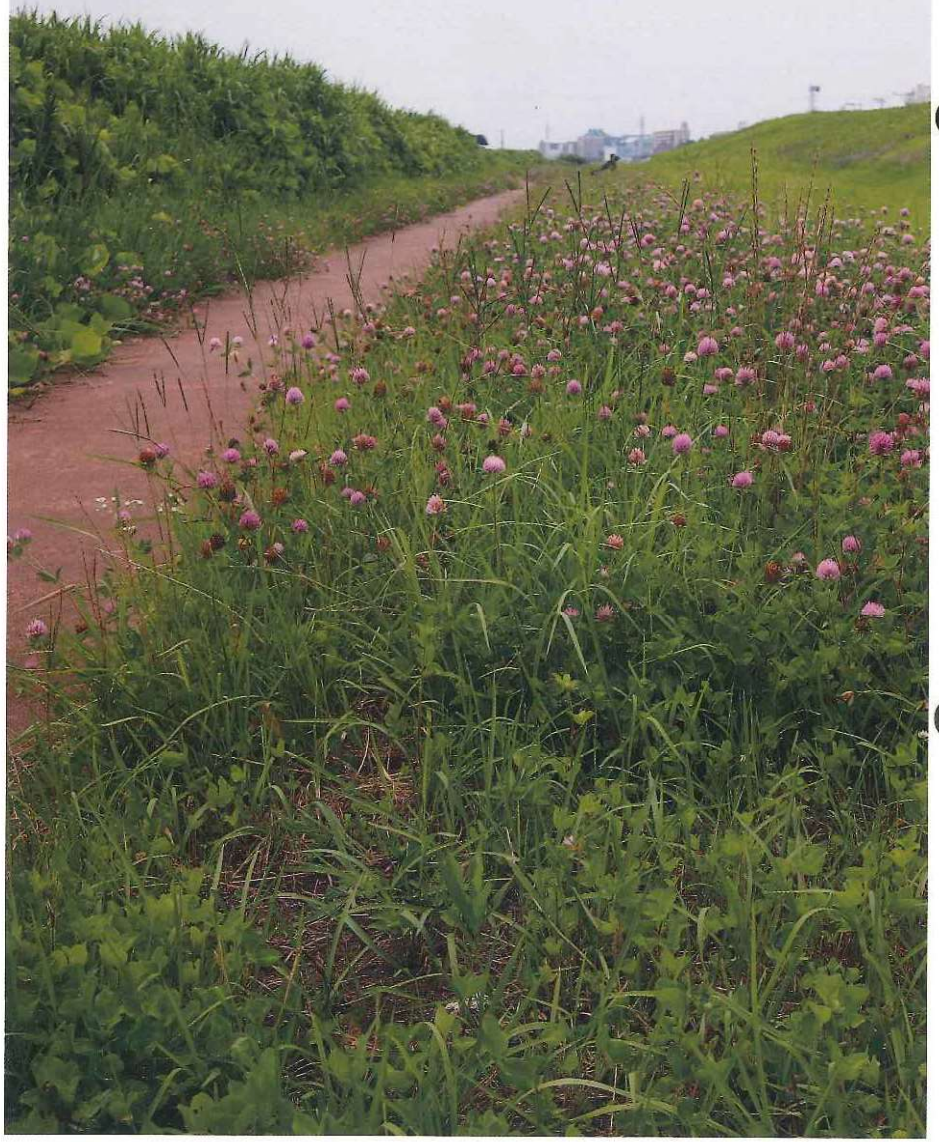
ウシガエルの幼体

ミシシッピアカミミガメ

アメリカザリガニ

自慢の原っぱ

電線やビルなど、目の前を遮るものが何もない。
緑と青、気持ちの良い空間が広がっています。
何の遊具もないけれど、自然遊びがいっぱい詰まっています。



下流ワンド

本流とつながっている入り江です。馬入水辺の楽校は河口から３㎞程上流にありますが、潮の満ち引きの影響を強く受けています。淡水と海水が混じった汽水であることから、海と川の生きものが見られます。

卵を持つハマガニ

ボラの稚魚

お魚に触れる

上流ワンド

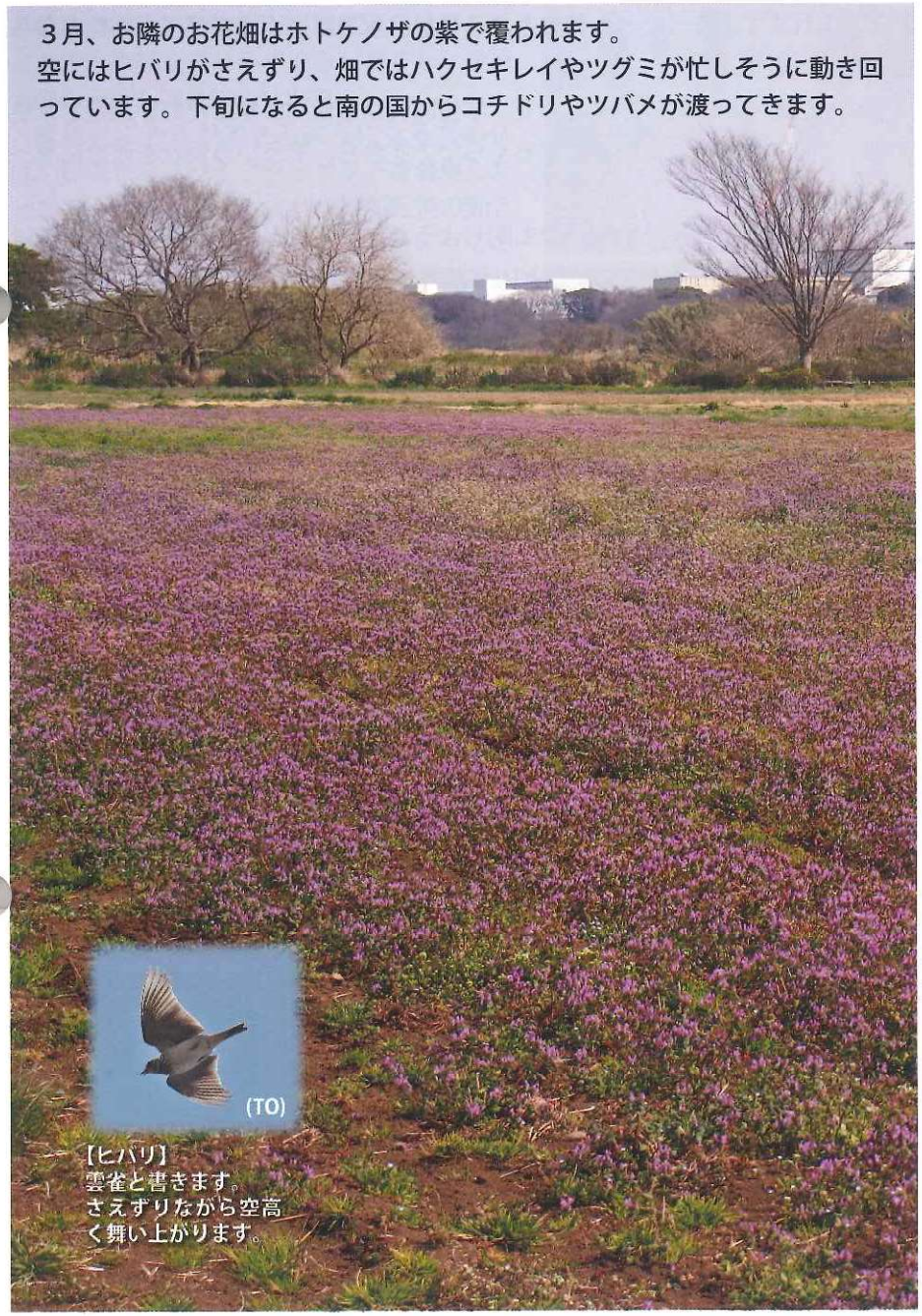
河原を掘ったら、自然に水がしみ出してきました。
最初の頃は広い水面が広がっていましたが、すぐにヨシやヒメガマに覆われてしまいました。東京環境工科専門学校の生徒の皆さんが、ヨシの刈り取りをしてくれています。

ヤギ島

川の中にある大きな中洲です。以前ヤギが放たれていたことからそう呼ばれています。春の大潮の干潮時には歩いて渡れます。島の中は草が生いしげり、入れません。タヌキが住んでいます。

お花畑も見逃せない

3月、お隣のお花畑はホトケノザの紫で覆われます。
空にはヒバリがさえずり、畑ではハクセキレイやツグミが忙しそうに動き回っています。下旬になると南の国からコチドリやツバメが渡ってきます。



(TO)

【ヒバリ】
雲雀と書きます。
さえずりながら空高く舞い上がります。

川遊びの心得

最近では夏になると川や海など、水辺遊びの事故のニュースが必ずと言っていいほど流れます。そういった背景もあってか、水辺で遊ぶ機会が子どもたちから失われています。

僕は水辺遊びが大好きな子どもで、学生時代から専門に学んだのが魚類と水生動物、そして今もそれを仕事にするくらいですから、そういう現状を残念に思っています。

馬入水辺の楽校がある相模川でも同じような水難事故があり、周辺の学校では遊ばない、近づかないようにするという指導がおこなわれていると聞いています。

そういった状況に対して、①親水性が高く、安全に近づけ、安全に遊べる水辺づくり、②生きものがたくさん見られる豊かな水辺づくり、③安全に楽しく遊ぶ方法を学ぶ機会を作る、という３つの方法が考えられます。すぐに始められるのは、③の安全に楽しく遊ぶ方法を学ぶ機会づくりです。

馬入水辺の楽校では、毎年、川遊びのイベントが開催されます。自然を楽しむだけではなく、ライフジャケットの正しい着用方法や浮かび方、スローロープの取り扱い、危険個所に関する注意などを学びます。ほんの少しの注意と装備で水辺遊びは、より安全になり、グッと身近なものになります。

ライフジャケットの使い方を学ぼう

流れのある川では足を下流側に向けておくことで、頭部を守りやすくなりますし、進行方向の確認も容易になります。

緊急時にそれができるようになるためには、日頃から、ライフジャケットを着用した状態で、浮かぶことに慣れ、方向転換の動きを覚え、落ち着いて動作できるようにしておくことが必要です。遊びの中で、体に染み込ませていきます。保護者の方もいっしょに練習してください。

スローロープを使ったレスキューも学んでください。

馬入水辺の楽校では、ここまで来て、やっと生きもの観察や自由な遊びに入ります。大人たちも子どもたちを見守る心構えができていますし、子どもたちも楽しみながらも、少しだけ気持ちが引き締まりますので、安全な川遊びにつながります。

●必着！ライフジャケット
ライフジャケットをつけていれば、川に落ちても大きな事故になりにくいです。万が一溺れた時は、上向きに、足を下流に向けて流れましょう。

なんてったって川遊び

とにかく子どもたちは生きものが大好きです。バケツの中は生きものですぐにいっぱいになります。馬入川では、マハゼやアシシロハゼのような砂地から砂泥地を好むハゼの仲間がたくさん網に入ります。ワンドや潮溜まりとなった池などにはボラの稚魚が群れをなしています。石をめくるとミミズハゼが、水草の中にはテナガエビやモクズガニ、カワアナゴ、時には大きなニホンウナギなどが隠れています。あちこちで楽しいという声が聞こえてきます。子どもたちを野に戻す。川遊びのできる環境づくりが必要と思う一瞬です。

執筆：（株）ビオトープギルド
三森典彰

自然観察入門

歩こう「浜口哲一自然観察の路」

自然観察というと、森林や海など、自然の豊かな場所と考えがちですが、生活の近くにあり、気軽に行けるフィールドを持つことをお勧めします。同じ場所に足しげく通うことにより、多様な自然との出会いが生まれます。馬入水辺の楽校は水辺の自然と野原の自然の両方が楽しめます。一年を通して自然観察や自然体験の催しが行われていますので入門者にも最適です。

五感で感じる

「自然観察会に来ませんか」とお誘いすると、「動植物の名前など何にも知らないから」と尻込みする方がいらっしゃいます。最初は名前など知らなくてもいいのです。先ずは自然の中に入り、生きものの不思議を見たり、四季の移ろいを感じたりすることが大切です。心がリフレッシュされること請け合いです。

忙しさに追いまくられる日々の暮らしを少し外に置いて、スローライフを楽しんでみませんか。

子どもの時は子どもする

子どもたちを元気にするためには、感性を磨くことが必要です。豊かな人間性を育てます。魚や虫をとる、泥だらけになって遊ぶ、モクモクのぼる入道雲や夏の暑い陽射し、夕立や爽やかな風を肌で感じるなど、五感で感じたことは生涯残ると言われています。

見る、聞く、さわる、かぐ、味わう

見る 注意深くあたりを見る、探ることにより、生きものたちとの出会いが深まります。野鳥観察でいえば、初心者の方は畑にたくさんいるハクセキレイやヒバリの姿が目に入りません。教えるとその存在に初めて気がつき、単なる土の広がりが生きもののすむ世界へと変わります。やがては、梢の中の野鳥や草花の陰に潜む昆虫類、地上を行進するアリの姿などが目に入るようになります。

聞く 目を閉じて耳をすましてみよう。音を集中して聞くと、小さな音までわかるようになります。鳥の声、虫の鳴き声、風の音など、幾つの音が聞こえたかな、数えてみましょう。

(CH)

さわる 手のひらセンサーで、木の肌を触ってみましょう。すべすべしているかな、ゴツゴツしているかな。
日向の金属と日陰の石との温度差を感じてみましょう。
指をなめ、空にかざしてみましょう。
ひやっとした方向から風が吹いてきます。

(CH)

かぐ 春3月のジンチョウゲ、5月のスダジイのむせかえるようなにおい、ほのかに甘い6月のスイカズラ、9月のキンモクセイの香りなど、自然の中にはいろいろな匂いが満ちています。違いがわかるかな。
お花畑の垣根はローズマリーで囲われています。ほんの少し葉っぱをもらって香りを楽しんでください。
①葉っぱのままかぐ
②ちぎってかぐ
③手でもんでかぐ

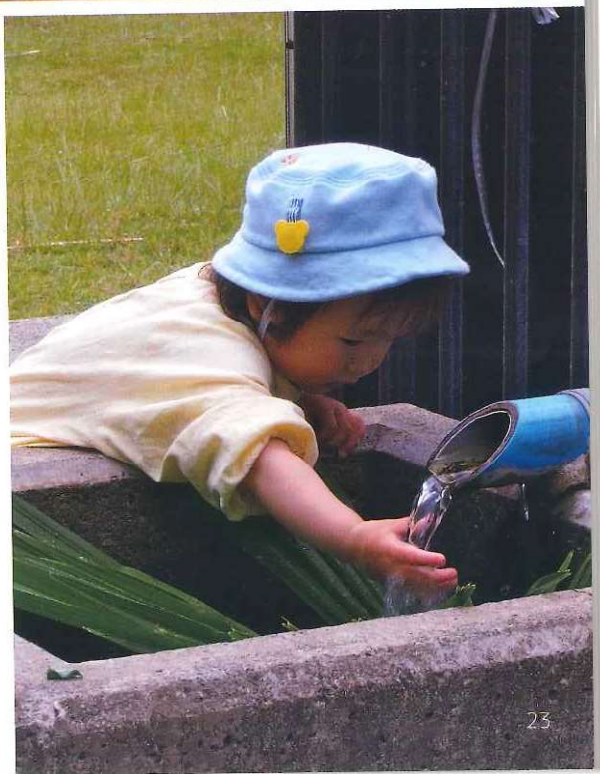
(CH)

味わう 水辺の楽校には、セイヨウカラシナやヨモギなど食べられる野草がいくつかあります。スイバは春遅く、赤い花をつけます。葉をちぎってなめると酸っぱいです。

あったかい、冷たい、すべすべしている・・・
五感で感じたことは大人になっても忘れない

少しも飽きない!!
出会いの数々

(CH)



虫眼鏡を使う

(CH)

小さな生きものを見るためには虫眼鏡が必要です。倍率は5〜10倍くらい、軽くて持ちやすいものを選びます。

虫眼鏡をできるだけ、目に近づけて見ます。最初は動かないものを、次にテントウムシなど、動くものをのぞき、虫眼鏡の使い方になれます。

太陽はぜったいに見ないで！
目が焼けてしまいます。

双眼鏡を使う

野鳥観察や樹上の花などを観察する上で、双眼鏡は欠かせない用具です。倍率は7〜10倍程度。丁寧に使えば長く使えますので、性能の良いものを購入しましょう。

ハンカチなどでレンズを拭くと、傷がついて見えにくくなります。汚れた時はブロワーでゴミを飛ばし、レンズクリーニング液とクリーニングペーパーを使って、レンズに傷をつけないよう、同心円状にそ〜っと拭きます。家に帰ったら、ゴミを払い、ケースから出して、お茶箱などに防カビ剤を入れ、保管しましょう。

写真を撮る

接写のできるコンパクトデジタルカメラがあると便利です。記録することはもとより、家に帰って、図鑑で名前を調べたり、よく知っている人に尋ねたりすることができます。

野鳥撮影には500ミリくらいの超望遠レンズが必要と思いがちですが、高倍率ズームのレンズ一体型カメラもよく写ります。コンパクトで持ち運びも便利で、気軽に野鳥写真を楽しめます。

横向きの写真を大きく撮るだけではなく、頭かきや採餌、飛翔など、野鳥の行動がわかるシーンを撮っておくと、観察記録として有用です。巣の写真や長時間の観察など、野鳥の生活を脅かさないよう気をつけましょう。撮りためた写真は、パソコンに整理し、保存しておきましょう。その際、バックアップを忘れずに。

行動を撮る

(TO)

アシの茎につくカイガラムシを食べるオオジュリン（冬鳥）

(TO)

ひまわりの実を食べるカワラヒワ（留鳥）

スケッチする

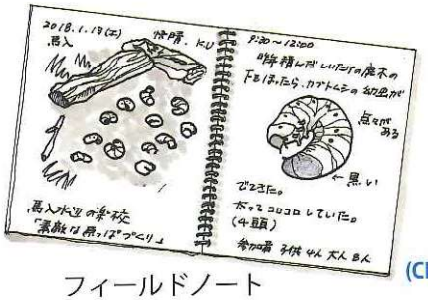
スケッチすると生きものの特徴などがよくわかります。スケッチが苦手な人は塗り絵図鑑を作るのも有効です。ただ、色を塗るのではなく、気づいたことなどを書き込みます。

フィールドノートをつけよう

観察した生きものの種類や性別、個体数や行動などをノートに記録しましょう。続けていると、出現時期や個体数の変動など、いろいろなことがわかってきます。日記がわりにもなります。観察年月日、天候、観察時間、観察場所は必ず書きましょう。

(CH)

塗り絵図鑑


(CH)

フィールドノート

雨の日の観察

雨が降っても生きものは元気です。カッパを着て出かけてみましょう。夏なら、カタツムリの仲間やカニ類などがあちこちで見られます。トビは空を飛んでいるでしょうか、キジバトは何をしているのでしょうか。雨がいやな人は雨上がりの後に出かけてみましょう。泥の上に生きものの足跡を見つけることができます。

●クロベンケイガニ（左）：足音が聞こえるくらいの大群がみられます。
●アカテガニ（中）：よく木に登っています。
●ハマガニ（右）：雨の翌日など、散策路沿いで見かけます。数の少ないカニです。
家に持ち帰らないでね。

雪の日の観察

雪が積もったら、長靴を履いて出かけてみましょう。雪国の景色が広がっています。人が踏み荒らしてしまう前に行くのがポイントです。双眼鏡とカメラを忘れずに。

雪原で餌を採る
アオジ（♂）

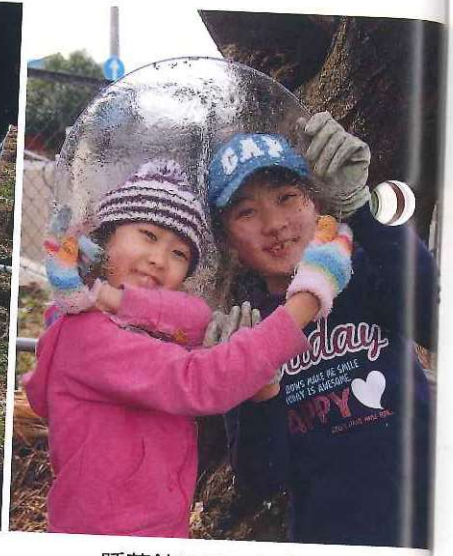
ノウサギの足跡

地表が雪で覆われるので、野鳥の姿が目につきます。ノウサギやタヌキなどの足跡も見つかります。

凍る

池の氷、霜柱。ザクザクと踏んで歩くのはなんだかきもちがいい。コンクリートで覆われた都会では体験できません。五感を刺激します。

新トンボ池の霜柱



睡蓮鉢にはった氷

ザクザク、ザクザク、踏まずにいられない

トンボ池の生きもの

馬入水辺の楽校のトンボ池は、ため池など、かつてあった水辺環境を復元し、そこに暮らす生きものたちを観察しようと作られました。トンボを指標に（自然環境の評価や保全・再生の物差し）、市民参加でモニタリング（生きものの調査）を行い、それに対応した環境改善作業を実施することで、自然環境の保全や再生方法、生きものの生態などを学んでいます。

多様なトンボの棲む環境にしていくためには、トンボのことを知らなくてはなりません。例えばシオカラトンボとギンヤンマ。どちらも明るくて開放的な池や沼を好むトンボの代表ですが、前者は水面をホバリングしながら産卵する打水産卵、後者は生きた水生植物に産卵する植物組織内産卵という産卵方法の違いから、水生植物の有無やその種の違いで好みの環境が分かれます。

シオカラトンボによく似たオオシオカラトンボは、ともに打水産卵で開放水面に産卵しますが、後者は暗がりが好きなことと、飛水産卵とよびますが、腹の先で水を打ちつけ、飛沫といっしょに卵を水生植物に飛ばし、貼り付けるという違いから、シオカラトンボより、水生植物が多めの狭い池を好む傾向にあります。

多種多様なトンボが棲める環境を形成していくことは、トンボだけではない、他の水生動物の生息にも関連があります。

シオカラトンボの気持ちで、水生植物がないか、あっても少ない開放的な明るい池を創出すれば、カメムシの仲間では、アメンボやヒメアメンボなどが、ゲンゴロウの仲間では、ハイイロゲンゴロウやヒメゲンゴロウが、カゲロウの仲間では、フタバカゲロウが、同様の環境を好んでやってきます。自然環境の保全や再生は人間の都合や視点でおこなわれがちですが、このように生きものの視点に立った環境づくりが大切です。

トンボ池づくりに関わることで、周囲に息づく命に思いを馳せて、知識や経験を蓄えながら生活するトコロジストがたくさん育っていけば嬉しいなぁと思っています。

執筆：（株）ビオトープギルド
三森典彰

ヤゴとミズカマキリ

トンボ池づくり

2011年6月14日

2011年6月14日（植栽）

2017年6月14日　モニタリングとエコアップ

新トンボ池

８月６日に作って、一ヶ月も経たないうちにシオカラトンボやウスバキトンボがやってきました。

2016年8月6日

2016年9月3日

原っぱの住人

人工的なグランドになることなく、自然のまま残せたことを最大の誇りとしています。一見すると何もいないようですが、いろんな生きものが息づいています。

日本で一番小さなネズミ「カヤネズミ」
鳥のような巣をつくります。神奈川県の準絶滅危惧種に指定されています。

セッカ（夏鳥）　ヒッツ、ヒッツ、ヒッツとよく通る声で鳴きます。

キジ

糞は見えてもなかなか出合えないノウサギ。

タヌキ　時折、顔を出します。

キリギリス
ギーッチョンと鳴きます。姿を減らしています。

涙目のツチイナゴ　バッタ類の天国です。

おもしろ野鳥観察

カラスウオッチング

ハシブトガラス

ハシボソガラス (H)

カラスは賢くて、いろいろな行動を見せてくれます。見飽きない生きものです。このへんではくちばしが太くて、おでことの間に段差があるハシブトガラスとくちばしが細めで段差がないハシボソガラスの2種が見られます。前者は後者よりやや大きく、鳴き声はカアカアとすんだ声。後者はガアガアと濁った声で鳴きます。

下の写真はとっておきのショット。オニグルミをくちばしではさみ、地面に落とし、割っているところのシーンです。割れるまで何回も繰り返します。

(TO)

(TO)

ねぐら探偵団

カラスやハクセキレイ、ムクドリなどは、秋冬季、集団でねぐらをつくります。以前、ねぐら探偵団を結成し、どこにねぐらを作るのか、何羽の集団かなどを調べたことがあります。ねぐらがわかると地域の野鳥の生息状況を把握することができます。

(KH)

ハクセキレイの集団ねぐら。人の集まる繁華街の街路樹などにつくります。昼間、生活しているところは、河川や農耕地などですが、なぜ、人の集まるところに、作るのでしょうか?

カラスのねぐらを調べた時は、夕暮れ時、カラスが飛んだ方向を自転車などで追いかけます。翌日は、その先を追いかけます。それを繰り返しますと、やがては、ねぐらに行き当たります。地図を片手の探索の旅。宝探しのようで、熱中しました。水辺の楽校のカラスやハクセキレイがどこにねぐらを作るのか、貴方も発見の旅に出てみませんか。ところで、馬入橋の橋桁には以前2,000羽近くのハクセキレイのねぐらがありましたが、８年ぐらい前になくなってしまいました。理由はわかっていません。

フィールドサインを見つけよう

生きものの活動の痕跡をフィールドサインと言います。足跡やフン、羽、食べ後などを探してみよう。

コロコロと丸いノウサギの糞。原っぱの草地を探してみよう。

モズのはやにえ。バッタが刺してあった。

赤ネズミの食べたオニグルミ。木から落ちた巣箱の中にたくさんあった。

足跡３種。アライグマ、タヌキ?　カラス。

自然観察路で見つけたモグラの白骨。

竹林で見つけたウグイスの巣。

一つの種をじっくり見る

(NM)

(NM)

写真はどちらもナミテントウです。ナミテントウの模様は、二紋型（黒地に赤星２ヶ）、四紋型（黒地に赤星４ヶ）、はん紋型（黒地に赤星がたくさんあるもの）、紅型（赤地に黒星）の４タイプに分かれます。別種のナナホシテントウは星が７つ。左右対称にならんでいて、頭の後ろの左右の黒班がひとつに重なって見えます。

水辺の楽校のナミテントウは何文型が多いのでしょうか？調べてみませんか。